

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2009年6月8日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合) [No.19]

JR総連・革マル派は内ゲバを「権力の謀略」と主張！

前号まで、多数のJR総連関係者が凄惨な内ゲバで死傷してきた事実を検証した。ところでJR総連側は、一貫して「絶対に逮捕されることのない何者かによる犯行」「権力の謀略」などと主張し、中核派や革労協が犯行声明を出しているにも関わらず、内ゲバであるとは絶対に認めようとしない。そして、これとまったく同じ主張をしているのが革マル派だ。このような特異な主張をしているのは、奇妙にも、JR総連関係者と革マル派だけである。これで両者の関係を疑わない方がおかしいだろう。

松崎氏は「まともな労働組合が邪魔だから役員が殺された」と主張！

本号では、この問題について、まずJR総連関係者の発言から紹介したい。

JR東労組元会長・松崎明氏 高崎地本松下委員長の葬儀における弔辞(1988年4月10日)
絶対に逮捕されることのない余裕を持った虐殺者たちを、俺は、「何者か」と呼ぶ。「何者か」による虐殺を俺たちは許さない。

松崎明氏 水戸地本組織部長加瀬勝弘氏 13回忌における挨拶(2001年2月3日)
虐殺は目的でなく手段であった。明らかに、それを通じて内ゲバ説をでっち上げ、あたかも組合が過激派革マル派に乗っ取られているかのような、その組合を庇護している会社であるような印象付けを世間に向かって行う、そういう一つの過程であったように思います。労働組合がまともな労働組合であっては邪魔になる、だから邪魔者を殺してきた。

JR総連前副委員長(現・特別執行委員)四茂野修氏 「週刊現代裁判」での東京地裁における証言(2008年7月24日)

(被告側代理人)-前略-「公安当局の直接・間接の関与によってもたらされた運動の破壊として捉えるべきだ」と思う。これがあなたの御認識だと思いますけれども、この内ゲバと呼ばれる事件において、公安当局が直接に関与しているというのは、どういった事態を想定してお書きになったんですか。(四茂野)例えば、情報を何らかの形で、そうした内ゲバをやっている党派に伝える、そのことを通じて、そうした事件を起こさせる、そうしたことがあった可能性は非常に高いと思います。(代理人)あるいは、派と呼ばれるような人たちでやったことになっているけれども、そうではなくて、実は公安当局に属するような人たちによって行われた可能性もあるというようなことも想定されておられるんですか。(四茂野)可能性はあると思っています。(代理人)先ほどの御本の中ですと、公安当局が間接に関与しているというのがありますが、これはどういった状況を想定しておられるんですか。(四茂野)例えば、党派間の対立をあおっていくとか、そうした操作が公安当局によって行われた可能性はあると思っています。(代理人)内ゲバと呼ばれるものについて、これが本当に内ゲバなのかということについては、あなた御自身は、現在、本当にそうなのかは分からないという御認識なんですね。(四茂野)まず、それが党派間において起こったこと、そのことについては全く否定はしておりません。しかし、それに対して、様々な公安当局の関与があったと、直接間接の関与があった可能性は非常に高いというように思っているということでもあります。

彼らは内ゲバについて、公安当局の関係者が襲撃した、あるいは、中核派などに情報を流して襲撃をやらせてきたと言いたいようだが、常識では到底理解できない珍説である。